

## 「みんながよろこぶとわたしもうれしい」



11月18日と19日の二日間、2学期の大きな行事の一つ『学芸会』を実施いたしました。多くの保護者ご家族、そしてご来賓の皆様にお出でいただき、子どもたちにお励ましのお言葉をいただきました。この場をお借りしまして、暑く御礼を申し上げます。

さて、運動会に続いて3年ぶりの学芸会の実施。6年生の移動教室等も含めれば、あわただしさもひとしおなのですが、このような行事を通して培われる大切な力は見過ごすことはできない重要なものです。

「みんなのなかで自分のよさを生かす」という自己肯定感の実感をもつ。そしていま一つは、みんなが共通の目標をもち、それぞれのよさを生かしながら、協力して「自ら学び、自ら問題を解決していく力を育てる」ということです。学芸会の前に子どもたちに次のような話をしました。

---

今日は、「みんながよろこぶと私もうれしい」という話をします。

今から10年以上も前、しばらく3年生の担任の先生をしていた時の話です。

今の皆さんと同じように学芸会の前で、教科書にあった「さんねんとうげ(三年峠)」というお話の劇をすることになり、誰が何の役をするか決めることになりました。けれども、一番大事な役の「おじいさん」の役がどうしても決まりません。

「かっこわるいからやだ。」「ころんでばかりいる役なんてやだ。」「おじいさんの役はやだ。」と言って誰も引き受ける人が出てきません。先生もみんなも、困ってしまいました。

みんなみんな、がんばろうとは思うのですが、おじいさんの役はやりたくない気持ちが強いようです。

しばらくしいんとしていました。とても長い時間に思いました。すると、元気でいつも校庭を男の子と走り回っているよう子ちゃんが、すっと手を挙げました。「どうしたの〇〇さん。」と聞くと、「私がおじいさんの役やります。」「おじいさんの役をやってくれるの。」

「だって、おじいさんの役、とっても大切だし、この役が決まらないとみんな困っちゃうでしょ。私が頑張っておじいさんの役をやれば、みんなも助かるでしょ。それに、みんながよろこぶとわたしうれしいもの。だから私がおじいさんの役やる。」

「ありがとう……。でも、だいじょうぶ？」

「うんたいしょうぶだよ。」

それでも心配だったので、その日の夕方、そっと電話でよう子ちゃんのお母さんに事情を話し、よう子ちゃんの様子を聞きました。

すると、やっぱり目を赤くして帰ってくると、ちょっとの間お母さんにひざで「えん、えん。」と、泣いていたそうです。話を聞いたお母さんが、どうしてもいやだったら先生にお話ししてあげるよ、と言ったそうです。すると、「だいしょうぶ。ほかにやりたい役があったけど、おじいさんがいないと劇ができないんだ。それにみんなが喜んでくれると、私もうれしいし。私、おじいさんの役がんばる。」と言って、今は自分の部屋に布団を敷いてどっすんばったんと、ころぶ練習をしているんですよ、とお母さんが話してくれました。

よう子ちゃんみたいに、自分が今、みんなのためにできることを一生懸命にする、すてきなあとと思いました。学芸会の当日、4年生の「さんねんとうげ」。おじいさんの『すってんころりん』、とっても輝いていました。

一生懸命自分の仕事、自分の役割をはたすってすばらしいですね。みんなのために自分のよいところや得意なことを生かしてがんばるって、すばらしいな。「みんながよろこぶとわたしもうれしいな」と思える気持ちとっても大切です。桃五小の皆さんが、みんなのために自分のできることを考えて、少しずつ自分のいいところを出し合えたら、桃五小はとってもとってもすてきな学校になりますね。

さあ、皆さんは、今、教室で、学校で、そして自分の家で「みんなのために今どんなことができる」でしょう。人の役にたつって、うれしいですよね……。そして、人の悲しむこと人を傷つけること、人に迷惑をかけることは絶対にしない強くやさしい心もってほしいな。みんなのために自分に今できること、考えてみてください。

---

申年の本年も一年間ご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。酉年の平成29年も、職員一同、子どもたちの幸せのために全力を尽くしてまいります。どうかよろしく願い申し上げます。

平成29年 とり

酉



